

(案)

第2章 花巻市の現状と課題

第1節 社会情勢の変化

1 少子高齢化・人口減少

国勢調査による本市の人口の推移をみると、総人口は平成12年の107,175人を頂点に減少を続けており、今後も減少傾向が続くものと見込まれます。また、年齢3区分別人口では、0～14歳の年少人口と15～64歳の生産年齢人口は減少し、65歳以上の老年人口は増加しており、この傾向は今後も続くものと見込まれます。

本市における合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均数）は、昭和59年の2.12を頂点に低下を続け、平成21年以降は1.40前後で横ばいとなっています。平成25年は1.45で全国の1.43を上回ってはいるものの、人口を維持するために必要といわれる値の2.07を大きく下回っています。

高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は年々上昇を続けており、平成25年は30.5%となっています。また、平成22年の65歳以上の高齢者がいる世帯54.6%のうち、高齢者夫婦のみの世帯は17.7%、高齢者のひとり暮らし世帯は15.8%で、高齢者のみで構成される世帯は増加しています。

このように、本市においても全国や岩手県の傾向と同様に、人口減少と少子高齢化がさらに進むことが予測されます。

<国勢調査結果 人口推移>

<合計特殊出生率 全国 岩手 花巻市>

<高齢化率 全国 岩手 花巻市>

<高齢世帯の推移 花巻市>

2 家族形態の変化

本市の世帯数の推移をみると、総数は増加していますが1世帯当たりの家族数は減少しており、平成22年には3.01人となっています。また、世帯構成別では、「夫婦のみの世帯」や「夫婦と子どもからなる世帯」、「ひとり親と子どもからなる世帯」のいわゆる核家族が増加し、「三世帯世帯」は減少しています。人口の減少に加え、核家族や単身世帯の増加など家族形態の多様化が進んでいます。

<国勢調査結果 世帯構成の推移>

3 女性の年齢階級別労働力（M字カーブ）

本市における平成 22 年の女性の年齢階級別労働力率は、大学や専門学校などを卒業し就業する 20 歳～24 歳で急増し、25 歳～29 歳でさらに高くなりますが、結婚や出産・子育て期に当たる 30 歳代で減少します。子育てなどが一段落する 40 歳～44 歳で再び上昇し、いわゆる「M字カーブ」を描きますが、M字の谷の部分にあたる 30 歳代の労働力率が平成 12 年に比べて上昇していることから、M字カーブが緩やかになっています。

また、平成 12 年は 20 歳代前半から後半にかけて労働力率が低下し始めていますが、平成 22 年は 20 歳代後半から 30 歳代にかけて低下していることから、晩婚化・晩産化の傾向にあることもうかがえます。

共働き世帯が増えており、出産・子育て期に当たる年代で働く女性が増えていることから、希望する人が働き続けるための取り組みが求められています。

<女性の年齢階級別労働力率>